

## 『在校生・修了生の「知」を活用した新たな産学連携ビジネス』

私が経営に携わっている(株)産学連携機構九州(九大TLO)は、九州大学において創出された研究成果を、企業に対し技術移転を行うことを目的とされた技術移転機関です。今年度で設立10年を迎え、特許など知的財産だけでなく、大学の「知」を活かした新規事業展開を模索しております。

そのテストケースの一環として、今回一部上場企業B社の福岡地域における新規事業展開に関するFS(フィージビリティスタディ)事業を受託しました。B社に対し、MBA的な視点で新規事業プランを提案するというものです。

具体的な調査・分析、事業プラン立案等を検討するに際し、専攻長である村藤教授をはじめ、修了生である2期生の金子信司さん、6期生の鄭自力さん、寺崎一生さん、中川将志さんにご協力していただきました。その貢献に対し、九大TLOからQBSへ25万円を寄付させていただきました。

このような新たな産学連携ビジネスの可能性を見出せたのも、QAN含めQBSのヒューマンネットワークがあってこそ実現できたことであると感謝しております。

今後とも大学の「知」を活かした産学連携ビジネスを検討していきたいと考えておりますので、引き続きご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

QAN副会長 坂本 剛(4期生)

## 8期生46人が入学

4月10日(土)、QBSの8期生46人を歓迎する入学式が、九州大学国際ホールで行われました。入学式後の教員との記念撮影、3時間にわたるガイダンスと、新入生は緊張の面持ちで新たなスタートに臨んでいました。

## \*QANだより\*

修了生の皆さん、修了おめでとうございます。また、8期生の皆さん、入学おめでとうございます。

今回は、QAN(QBS Alumni Network)の近況をご報告します。

今年度は6委員会、4プロジェクトを発足し、各種検討・取り組みを行っています。

12/19には、文具王の高畑正幸さんを招き、「新しい発想の生み出し方」と題したセミナーを行いました。さすが、「全国文房具通選手権」3連覇中とあって、刺激たっぷりのセミナーでした。また、QANホームページもまもなく新装オープンします。ありがちな掲示板的な案内だけではなく、会員が有効に活用できるホームページを目指しています。ご期待ください。その他、修了生同士が夜な夜な集まって情報交換をしたり、ビジネスを相談しあったりと諸々活動中です。

最後に、5月に修了生全員を対象にした「QAN大同窓会」を企画中です。もちろん、先生方、大学関係者、現役生もご参加して頂きたいと考えています。会員の皆さん、そして関係者の皆さん、別途ご連絡しますので、ご参加よろしくお願いたします!大騒ぎしましょう!

QAN会長 長本 敏文(5期生)

## BBIQモーニングビジネススクール オンエア3年目に突入!!

クロスFMで月～金の朝8時10分～20分に放送されているBBIQモーニングビジネススクール(MBS)も放送3年目に入り、ますます快調にオンエア中です。

MBSではQBSの教員のビジネスにまつわる話はもちろんのこと、在校生・修了生の社会人学生ならではのエピソードや中国からも「大連リポート」を毎月発信しています。

BBIQモーニングビジネススクールはポッドキャストでも聴取できます。

詳しくは番組のブログ(<http://bbiq-mbs.jp/>)でどうぞ。

## 在校生紹介



首藤 真さん(7期生)  
所属  
株式会社ジオ技術研究所

私はQBS入学まで単なる「エンジニア」で、自分の仕事を「技術的」な目線でしか見たことがありませんでした。しかし、年齢を重ねるごとにそれ以外の「ビジネス的(会計的、人事的、マーケティング的)」な面で悩むことが増えました。漠然と「この会社はうまく経営されてないのでは?」という疑問や不満もありました。

入学後1年間でMBAベーシックと呼ばれる科目を体系的に学び、今の仕事を多角的な目線で見ることができるようになりました。また、これまでビジネス上では交わることがなかった業種、役職の方々と一緒にビジネスについて議論させて頂き、1人では知えなかった目線にも気づかされました。

あと1年。修了後のチャンスも見据え、ビジネス力を向上させて行きたいと思っています。



鳥越 未来子さん(7期生)  
所属  
自治体職員

行政と企業とのリレーションシップ、公的な活動を通じて相互に利益を得ることは、これからの地域発展において一層重要になると思い、企業経営について学ぼうと昨春QBSに入学しました。

「QBSは勉強の場ではなく課題解決の場」という先生の言葉が強く心に残っています。

各講義を経て、企業活動だけでなく、自身の「組織」を新たな視点でみることができるようになりました。組織内外の様々な構成要素と互いの作用、これまで見過ごしていた諸問題発生メカニズムにも気づかされます。多様なバックグラウンドを持つQBS生(卒業生も在校生も)の集う場は、授業外においても一瞬一瞬に新しい発見がある大切な時間です。

職場のQBS生は6名になりました。QBSを通じた内外のネットワークを活用し、地域発展の一翼を担えるよう、また自身がQBSの皆さんに貢献していけるよう、残り1年のQBS生活を通じて研鑽したいと思います。

## TOPICS

## QBS2010年度の展望



村藤 功専攻長

1年前にQBSニューズレターで大学基準協会による認証評価を終えて、QBSは第2段階の発展を目指すということを目指しました。そのときエクゼキュティブコースと新キャンパスの話を目指しました。エクゼキュティブコースは、九州の企業に対して期間、科目、価格設定等を含めたヒアリング調査を現在行っており、2010年度の後半に実験的なコースを開講したいと思っています。新キャンパスは2011年の4月から博多駅に平日移転することになり、講義の期間、授業を始める時間、開講科目、設備などを詰めているところです。博多駅で開講すれば福岡だけでなく熊本から学生が来てくれるはず。もうひと

つの大きな取組としてエンタープレナーシップセンター(EC)の立ち上げがあります。これは2009年度に高田先生をMITに派遣する資金を提供してくれた九大卒業生のロバートファン氏(2010年3月に九大名誉博士号授与)の支援を得て、九大本部、VBLと共に取り組んでいるものです。九大からEC精神を持った人々が輩出されるように各種EC教育の充実を企画しています。2009年度のアジア連携は、スタディーツアーとして大連理工大と上海交通大学に行きました。2010年度は韓国のKAISTとシンガポールを想定しています。交換留学生は、2009年度は東北大、南京大、東北財経大、大連理工大から8人を受け入れ、こちらからは前期に一人を上海交通大学、後期に一人を大連理工大に送りました。2010年度前期としては、上海交通大学に二人、南京大と大連理工大に一人ずつ、フランスのカシヤンに一人送りました。QBS学生だけでなく卒業後のQANのメンバーも国際的に広がりつつあり、嬉しく思っています。

## 第3回 QBSフォーラム開催



2010年3月13日(土)、九州大学の西新プラザにて、「第3回QBSフォーラム」が開催されました(主催:QBS学生会、後援:QBS Alumni Network)。

本フォーラムはQBSの学生たちが、2年次に取り組んだプロジェクト論文の成果を毎年発表して、その成果の共有を図ると同時にお世話になった関係者へのお礼の場としているもので、今回は3回目を迎え、QBS6期生から選ばれた総勢14名により、研究成果の発表が行われました。参加者もQBSの現役生のみならず、教職員、修了生、今春入学予定の8期生、他大学関係者、論文作成にあたってお世話になった方々など、多くの方々にご来場いただきました。

各発表内容も、自社における今後のビジネスプランや経営戦略に関するもの、経営理論に関する学術的な検討、実在の企業の経営分析、公的機関における制度や運営のあり方の

考察など、各自の問題意識に基づいた、バラエティに富んだ内容となりました。各参加者からも、各発表に関して鋭い質疑が投げかけられ、非常に活発で白熱した議論が数多く交わられました。

フォーラム終了後には、会場内で交流会も盛大に開催され、各参加者同士でさらに親睦を深めあい、修了生のこれまでの研究を締めくくるに相応しいイベントとなりました。

鶴丸 貴信(6期生)





## TOPICS

### QBS教員紹介

今回のQBS教員紹介は、星野裕志教授です。



みなさん、こんにちは。九州大学ビジネス・スクールの設立された2003年4月から、ビジネス・スクールと経済学部で講義を担当しています。QBSの多くの学生の皆さんと同様に、社会人として米国のビジネス・スクールで学んだ経験と神戸大学のビジネス・スクールでの教育経験から、それぞれの優れた点をQBSに持ち込みながら、独自のプログラム作りを考えています。

また、毎年特定のテーマを持って、その分野で高い実績をあげている米国やカナダのビジネス・スクールを数校訪問し、実際に講義を受けさせていただきながらベンチマークをすることで、それらのプログラムのQBSへの導入も図っています。例えば、ケース・メソッドによる教授法やファカルティ・ディベロップメント(FD)といわれる教育手法であり、大学院間のコンソーシアムなどです。いつかQBSでも、MBAと他の専門分野のダブル・ディグリーが実現できればと思います。

また、毎年特定のテーマを持って、その分野で高い実績をあげている米国やカナダのビジネス・スクールを数校訪問し、実際に講義を受けさせていただきながらベンチマークをすることで、それらのプログラムのQBSへの導入も図っています。例えば、ケース・メソッドによる教授法やファカルティ・ディベロップメント(FD)といわれる教育手法であり、大学院間のコンソーシアムなどです。いつかQBSでも、MBAと他の専門分野のダブル・ディグリーが実現できればと思います。

今春は、初めてヨーロッパのビジネス・スクールを訪問しました。頂上ははるかかたにあることはわかりますが、まだまだ見えません。

QBSでは、国際経営と国際ロジスティクス(英語開講)を教えます。国際経営は多国籍企業論として専門とする研究領域であり、国際ロジスティクスは海運企業と航空会社の勤務から得た国際物流分野に関する知見から、これらの二つを担当しています。従来から、まったく異なる二つの分野を研究対象とすることには、ずっと戸惑いがありました。ところが、従来は主にコスト削減を目的とした物流管理という管理手法が、企業のグローバル・オペレーションの進展と共に大きく変化し、グローバルな規模の原材料の調達から生産、製品の出荷における安定性と効率性が注目されるようになり、また優れたロジスティクス・マネジメントが付加価値をもたらすという点で、企業において重視すべき重要な対象となってきました。さらに最近では、企業の社会的責任としても、無視できない存在になっています。まさにグローバル・サプライ・チェーン・マネジメント(G-SCM)を通じて、これらの二つの分野が融合してきたといえます。

今までさまざまな世界を覗いてきました。個人としては、ビジネスマンのスピード感と、研究者としての論理性と、市民活動からの現場感覚を常に持っていたいと思っています。

うさぎのクレタは、愛想はないけれど、いつも気になる存在です。

星野 裕志  
(国際経営・国際ロジスティクス担当)

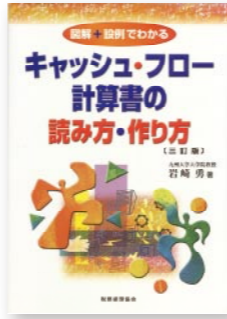


### QBS BOOKレビュー「この1冊」

今回のQBSブックレビューは、岩崎勇教授のおすすめの「この一冊」です。

#### 岩崎勇著 『キャッシュ・フロー計算書の読み方・作り方(三訂版)』 税務経理協会

私達は、貨幣経済社会の中で暮らしている。この貨幣(キャッシュ:現金)は、しばしば身体における血液に喩えられる。そして、このキャッシュの管理は、個人においても企業においても、利益を獲得することと共に、非常に重要な役割を果たしている。そこで、一般に企業の収益力を示す利益は繁栄の指標であるが、企業の支払能力を示すキャッシュは企業の存続の指標であるといわれている。本書は、このようなキャッシュの流れを示した計算書であるキャッシュ・フロー計算書の読み方と作り方を簡潔・明瞭に解説したものであり、ビジネス・パーソンにとっては必読の書の一つと思われる。ご関心のある方は、是非一読をお勧めしたい!!



岩崎 勇  
(財務会計、コーポレート・ガバナンス担当)

### 第12回 ICABE学生交流プロジェクト 上海を訪問

2月25日(木)から28日(日)まで3泊4日で上海市を訪問、参加者は修士課程の学生、先生方も含め総勢32名。25、26日上海市内訪問先のJETRO、DBJ、みずほ銀行では、上海における経済状況、ビジネス全般の概要あるいは金融実務について、個人的なエピソードを交えながら現地在住者ならではの話を聞くことができ、熱心な質疑応答・意見交換が行われました。27日は上海市から北西へ車で1時間あまりの常熟工場団地内にある西部技研工場(本社古賀市)を訪問し、会社説明を受けた後工場内を視察。その後、開発本部へ移動し常熟工業団地についての説明を受けましたが、日本語堪能な職員が何名もおり日本企業誘致への並々ならぬ熱意が感じられました。QBSの学生にとっての主目的は、上海交通大学ビジネススクールの学生たちとの交流でしたが、26日(金)午後1時から始まった交流行事には、上海交通大学及びQBS総勢40名余りが参加、各々3つのグループに別れ、予め設定されたテーマ(食品、日本にはあるが中国にはないビジネス、環境)に沿ったプレゼンを実施。身近なテーマを選定したことが、活発な質疑応答・意見交換に繋がりが有意義な交流となりました。交流行事終了後の懇親会では、より打ち解けた雰囲気の中で親しみが一層増したように感じられました。毎度のことながら駆け足の旅ではありましたが、経済成長著しい中国・上海の息吹を肌で感じる事ができた貴重な機会でした。



上海交通大学 黄先生を囲んで



常熟工場団地内 西部技研工場にて

## TOPICS

め熱意が感じられました。QBSの学生にとっての主目的は、上海交通大学ビジネススクールの学生たちとの交流でしたが、26日(金)午後1時から始まった交流行事には、上海交通大学及びQBS総勢40名余りが参加、各々3つのグループに別れ、予め設定されたテーマ(食品、日本にはあるが中国にはないビジネス、環境)に沿ったプレゼンを実施。身近なテーマを選定したことが、活発な質疑応答・意見交換に繋がりが有意義な交流となりました。交流行事終了後の懇親会では、より打ち解けた雰囲気の中で親しみが一層増したように感じられました。毎度のことながら駆け足の旅ではありましたが、経済成長著しい中国・上海の息吹を肌で感じる事ができた貴重な機会でした。

丸山智恵子(7期生)



JETROにて



上海交通大学でのプレゼンテーション

### QBS6期生の旅立ち

3月20日QBS6期生の修了式が九州大学国際ホールで行われました。

式典には、平成21年度修了の6期生45名をはじめとし、総勢約120人が出席しました。

川波洋一経済学府長から修了生一人一人に学位記が授与され、感慨もひとしおの様子でした。新しくMBAとなった45名の今後ますますの活躍が期待されます。



### MIT(マサチューセッツ工科大学)訪問記

「MITといっても、QBSの学生が届かないレベルではない。」QBS6期生の宣虎長が、ボストンから日本への機中、思わず口にした一言です。2月17日から3日間、QBS、QAN、九州大学、早稲田大学の総勢11名がボストンにある、MIT Sloan(以下MIT)を訪れました。MITにはQBSの高田先生が派遣されていたため、幸運にも世界最高峰の空気に触れる機会が得られたのです。MITでは、2つの講義への参加(Clayton ChristensenとMichael Cusumano)、そして、MIT学生とのビジネスプランのディスカッションが行われました。講義を受け持つ二人は超ビッグネーム。参加者全員がその一言一言を逃さぬよう、命がけで講義に集中しました。BPのディスカッションでは、日本2名(QBS市川、早稲田大学米森)、MIT1名による発表が行われました。米森の宇宙発電のテーマに関しては、ビジネススクールとは思えない程の技術的質問がMIT学生から集中し、その知識の幅広さを印象付けました。しかし、日本勢も言語のハンディがある中で、熱い議論を繰り広げ、自分の知識・アイデアが世界でも戦えることを実感することができました。わずか3日間の弾丸ツアーでしたが、世界というフィールドにおける自分のレベルを感じることができた貴重な経験となり、今後の人生に大きな影響を与えることでしょう。

市川 克(7期生)



### 修了生紹介



松岡 誠一さん(3期生)  
所属  
(株)ビデオ・ステーション・キュー

テレビ番組、CM、企業のPRビデオを制作する会社で経営に携わっています。QBSに入学したのは、制作の現場から管理部門に異動になったことがきっかけでした。財務や人事など、経験不足を補うつもりで入学しましたが、期待以上に多くの事を学ぶことができました。大げさな言い方ですが、2年間で別の人間に生まれ変わったと思えるほどです。

修了から3年たった今、2年間で作り上げた土台の上に日々の経験が知識となって積み上げられていくのを実感しています。QBSは2年間勉強するだけの場ではなく、修了後も仕事から学び続けるための基礎を作り上げる場であったと感じています。

「知識」は「財産」だと思います。使っても減らない、使えば使うほど価値が上がる「財産」だと思います。その財産を手に入れる機会を提供してくれたQBSに感謝!



本城 亮さん(1期生)  
所属  
TOTOインフォム株式会社

思い起こすのは夜更けの道。QBSの仲間と駆馬で走る光景。

あまりに味気ないと叱られるかもしれない。しかし、なぜか講義の後のあの日常を思い出す。

QBSの2年は新鮮で、濃密で、多彩な方と交わることができ、実務への取り組みだけでなく人生観まで変わった。先生方や同級生からの様々な刺激、外に出て初めてわかる自社のイメージなど、目を覚まされた記憶も数限りない。

私が勤務するTOTOでは「設備の取替だけでなく、期待以上の生活を提案する」リモデルという活動を行っている。それになぞらえると「理論を学べるだけでなく、期待以上の変化をもたらしてくれる」QBSであった。

あの思い出は、懸命に(かどうかはわからないが)走った2年を象徴しているのかもしれない。